

明日の養液栽培をリードする

OATハウス肥料 シリーズ

OATアグリオ(株)は、長年にわたり養液栽培の研究を重ね、商品の改良や新商品の開発、培養液処方の提案を通して、OATハウス肥料シリーズを一層充実して参りました。高品質のOATハウス肥料シリーズは養液栽培の安定生産に大きく役立ちます。



特長 1 高度に精製された原料を使用した
高品質の養液栽培用肥料です。

特長 2 養分バランスが優れ、高純度の肥料だから
安心して長期間使用できます。

特長 3 あらゆる栽培場面に対応した
最適な培養液処方が簡単にできます。

特長 4 最新鋭の分析技術と培養液処方の提案による
充実したサービス体制でサポートします。

■成分組成

製品名	保証成分 (%)						配合成分 (%)				
	窒素全量 TN*1 (AN/NN)	水溶性 りん酸 P ₂ O ₅ (WP)	水溶性 加里 K ₂ O(WK)	水溶性 苦土 MgO(WMg)	水溶性 マンガン MnO(WMn)	水溶性 ほう素 B ₂ O ₃ (WB)	カルシウム Ca (WCa)	鉄 Fe	銅 Cu	亜鉛 Zn	モリブデン Mo
OATハウス1号	10.0 (1.5/8.2)	8.0	27.0	4.0	0.10	0.10		0.18	0.002	0.006	0.002
OATハウスS1号	9.0 (-/8.6)	7.0	32.0	4.0	0.05	0.07		0.15	0.002	0.006	0.002
アミノハウス1号*2	10.0 (1.5/8.0)	8.0	27.0	4.0	0.100	0.100		0.18	0.002	0.006	0.002
アミノハウスS1号*2	9.0 (-/8.5)	7.0	32.0	3.5	0.050	0.070		0.15	0.002	0.006	0.002
OATハウス2号*3	11.0 (NN)						16.4				
OATハウス3号	13.0 (NN)		46.0								
OATハウス5号	6.0 (AN)		9.0		2.00	2.00		5.7	0.04	0.08	0.043
OATハウス6号				16.0							
OATハウス7号	11.0 (AN)	61.0									
OATハウス8号	10.0 (NN)	9.0	40.0								
OATハウス9号		51.0	33.0								
OATハウス10号			53.0								

※1) AN: アンモニア性窒素、NN: 硝酸性窒素

※2) アミノハウス1号、アミノハウスS1号は、アミノ酸、有機酸を含む。

※3) CaOとして23.0%

アミノハウス1号・S1号の特長

- ① 葉菜類を対象としたアミノ酸・有機酸入り養液栽培用肥料です。
- ② ミツバ、サラダナ、ネギ等の葉菜類に使用すると品質やたなもちの向上が期待できます。
- ③ 培養液の調製方法はOATハウス1号と同じです。

〈包装〉 15kgポリ袋入り……………1号、S1号、アミノハウス1号、アミノハウスS1号
10kgポリ袋入り……………2号、3号、6号、7号、8号、9号、10号
1kgポリ袋入り×10袋/ケース……………5号

〈登録番号〉 ・OATハウス1号(生第92893号) ・OATハウスS1号(生第92891号) ・アミノハウス1号(生第103384号) ・アミノハウスS1号(生第103385号)
・OATハウス2号(生第92812号 生第75834号) ・OATハウス3号(生第78297号) ・OATハウス5号(生第68572号) ・OATハウス6号(生第46460号)
・OATハウス7号(輸第9845号) ・OATハウス8号(生第69603号) ・OATハウス9号(輸第9846号) ・OATハウス10号(生第92813号)



OATアグリオ株式会社

標準培養液の成分組成 (ppm)

成分名	A処方	SA処方	C処方	SC処方	B処方
窒素全量 (TN)	260	245	258	223	230
アンモニア性窒素 (AN)	23	(6)	23	(6)	20
硝酸性窒素 (NN)	233	239	231	217	210
りん酸 (P ₂ O ₅)	120	105	138	105	93
加里 (K ₂ O)	405	480	485	480	377
石灰 (CaO)	230	230	184	184	219
苦土 (MgO)	60	60	60	60	80
マンガン (MnO)	1.5	0.75	1.5	0.75	1.0
ほう素 (B ₂ O ₃)	1.5	1.1	1.5	1.1	1.0
鉄 (Fe)	2.7	2.3	2.7	2.3	2.9
銅 (Cu)	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02
亜鉛 (Zn)	0.09	0.09	0.09	0.09	0.04
モリブデン (Mo)	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02
EC値 (dS/m)	2.6	2.6	2.7	2.4	2.4

注) EC値は水道水 (EC0.11dS/m、水温25℃) に溶解した測定値。

培養液処方の特長

A処方 果菜類、葉菜類、花き類に広く使用できる汎用型培養液処方です。

SA処方 トマトの尻腐れやレタスのチップバーンなど、高温による生理障害が発生しやすい時期の果菜類、葉菜類に対応した培養液処方です。

C処方 アンモニア性窒素を適度に含み、秋から春の果菜類に対応した培養液処方です。

SC処方 原水にカルシウムを多く含む場合や、高温による生理障害が発生しやすい時期の果菜類、葉菜類に対応した培養液処方です。

B処方 汎用性の高い園試処方です。

培養液の調製方法

1.肥料を水で溶解し濃厚液を調製します。

※通常この濃厚液を保管して使用します。この濃厚液を100倍に希釈すると上記の標準培養液になります。

■標準培養液 20 トン分の原液 (200ℓタンク) の使用量

濃厚原液	A処方	SA処方	C処方	SC処方	B処方
1号タンク	1号 30kg	S1号 30kg	1号 30kg 8号 4kg	S1号 30kg	3号 16.2kg 5号 1.0kg 6号 10.0kg 7号 3.1kg
2号タンク	2号 20kg	2号 20kg	2号 16kg	2号 16kg	2号 19.0kg

備考: 1) 培養液をEC0.6~0.8dS/mで使用する場合はハウス5号2kg、0.8~1.3dS/mで使用する場合はハウス5号1kgを、1号原液タンクに追加してください。

2) B処方の濃厚原液を作る場合、ハウス3号を2等分し、1号タンクと2号タンクの両方に分けて入れると100ℓに溶解できます。

2.栽培する作物に合わせて目的の濃度になるよう希釈して使用します。

3.培養液のpH調整には「PH調整剤アップ」(上昇用)・「PH調整剤ダウン」(下降用)をご使用ください。

*PH調整剤アップ(劇物)・ダウン(普通物):〈包装〉10ℓバグインボックス入り

●取り扱い

OAT アグリオ株式会社
<https://www.oat-agrio.co.jp/>
 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1
 コールセンター: ☎0120-210-928 (9:00~12:00・13:00~17:00 土・日・祝日を除く)